

（件名）上海市の都市封鎖（ロックダウン）について

新型コロナウイルスの感染急拡大により、上海市全域で都市封鎖（ロックダウン）が始まりました。

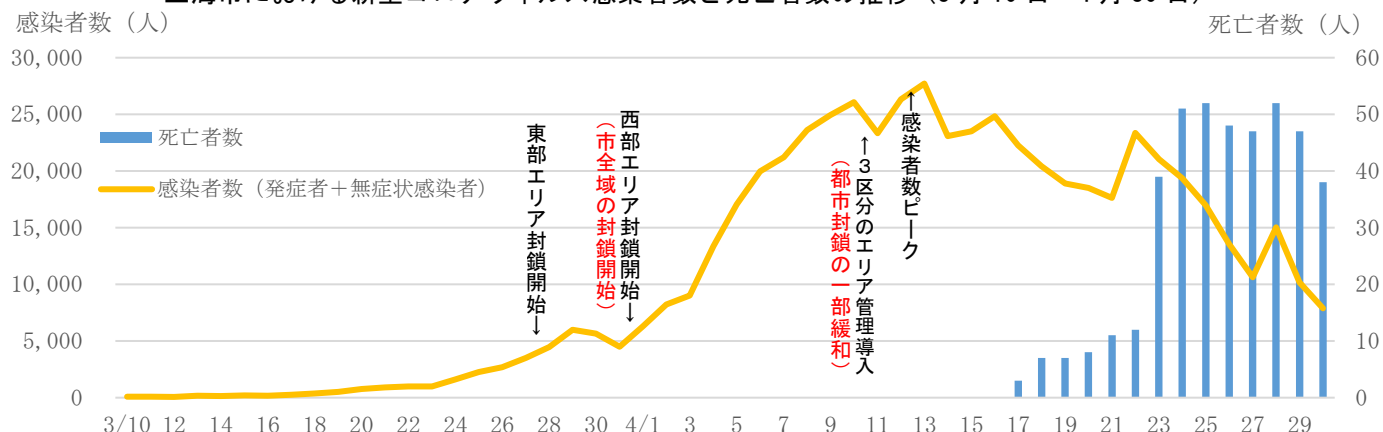
1. 新型コロナウイルスの感染状況の推移

上海市での新型コロナウイルスの市中感染は、2月24日に市内の無症状感染者を1名確認して以降、徐々に増加し、3月10日には、感染者数（発症者+無症状感染者）が75名、3月20日には768名、上海市東部での都市封鎖が開始した3月28日には4,477名となっていました。

その後、4月4日に13,354名となって以降は、4月13日の27,719名をピークとして、30日に7,872名に低下するまで、26日間連続で1万人以上の感染者を記録しました。

また、4月25日及び28日の52名をピークに、合計422名の方が、4月中に新型コロナウイルスの感染により亡くなりました。

上海市における新型コロナウイルス感染者数と死亡者数の推移（3月10日～4月30日）



2. 上海市都市封鎖（ロックダウン）の各局面

(1) 感染拡大期（3月1日～）

市政府は3月12日、市民に不必要に市外へ出ないよう要請するとともに、上海市に出入りする場合は48時間以内のPCR検査陰性証明を求めると通知、さらに市内全ての小・中学校で授業をオンラインに切り替える対策などを講じる一方、3月15日の会見では、都市封鎖を実施する考えはないと述べていました。都市封鎖を避けるために翌16日から市内全域で感染者を特定するためのPCR検査が行われました。当事務所を含めた一般的なオフィスは、在宅勤務が求められ、飲食店の店内営業も順次禁止となり、宅配と持ち帰り営業のみとなりました。

(2) 東西エリアに分けた期限限定の都市封鎖スタート（3月28日～4月5日）

様々な対策の実施にも関わらず、その後も感染者数は拡大の一途を辿り、市政府は27日夜、上海市を東西に分けて封鎖管理を行うと発表しました。28日零時から4月1日は東部エリア（約900万人）、4月1日から5日までは西部エリア（約1,500万人）を封鎖し、この期間をもって感染を基本的に収束させる計画でした。

封鎖管理の支援のため、2万5,000人以上の人員が国内各地から駆け付けるとともに、4月2日には孫春蘭副総理が上海入りし、封鎖管理の指揮に当たりました（4月末まで滞在）。



全住民を対象としたPCR検査

(3) 全域での都市封鎖の延長（4月5日～）

東西エリアに分けた期間限定の都市封鎖の成果も空しく、感染は急拡大を続け、先行した東部エリアも含めて封鎖が一時解除されることも無いまま、上海市全域で封鎖が継続されることとなりました。結

報告者 日中経済協会上海事務所 北海道経済交流室長 早田 武志

果的に、上海市全域の封鎖は4月1日から開始したことになります。終わりの見えない封鎖生活に突入したことで、この頃から市民の不満の声も大きくなり始めました。

(4) 感染リスクに応じた3区分のエリア管理の導入【都市封鎖の一部緩和】(4月11日～)

4月11日、市政府が、一律の封鎖管理からの転換として、感染リスクに応じた3区分のエリア管理を行うことを発表しました。小区(※)ごとに感染者の発生状況を判定し、最も厳格な「封控区」(直近7日以内に感染者発生)に該当した場合は引き続き自室からの外出が禁止される一方、中間の「管控区」(直近14日以内に感染者発生)では小区敷地内の外出が可能となり、最も緩和された「防範区」(直近14日以内に感染者発生なし)の住民は、条件付きながら小区からの外出が可能となりました。

この時点をもって、完全ロックダウンからの一部緩和が実現したと言えますが、外出範囲は小区周辺のエリアに限られ、公共交通機関は停止し、オフィスは閉鎖されており、市中の店舗への個人客の入店は拒否されますので、実際のところ、外出が認められても有為な活動がほとんど出来ない状況です。5月以降の本格的な市民生活の再開が期待されます。

(※ 小区：町内会に該当し、ゲートで出入りが管理される。規模はマンション一棟から数十棟まで様々。)



4月22日 歩行者は殆ど見かけない
(当事務所が入居するオフィスビル周辺)



食品スーパーの宅配業者向け商品棚
(一般客の入店、直接購入は不可)



団体購入のセットを積み込む
パン店のスタッフ(防護服着用)

3. 感染者が発生した場合の対応

市中感染者が発生した場合には、感染者及び濃厚接触者の指定病院等への隔離と合わせて、感染者が発生した小区単位の封鎖措置が即座に執られます。感染リスクに応じた3区分のエリア管理については、最も厳格な「封控区」に自動的に移行します。

「封控区」となると、敷地内で連日実施される住民全員を対象としたPCR検査の時を除き、自宅の扉から出ることができません。生活物資は、マンション管理会社のスタッフが防護服を着用し、各戸へ配達してくれます。

なお、急患時の通院など人命に関わる場合は、申請により特別に小区からの外出が許可されています。

4. 都市封鎖中の生活について

(1) 物資の調達

封鎖期間中、市民は住居から外出することが禁じられており、生活物資の入手方法は、基本的に宅配サービスのみ限定されていることから、宅配を行うトラックやバイクが極めて逼迫しております。

そのため、個人向けのネット販売店舗は開店後数分で1日の営業を終了することが通常であり、開店時間も不規則なことから、必要な商品を確保するために、スマートフォンに一日中貼り付いている人も多ようです。

また、野菜や肉、水などの物資については、例えば50セット以上など、一括購入の場合のみ宅配可能とする商店が優勢であることから、各マンションで自発的にSNS(WeChat)を活用して「団体購入」用の住民グループチャットを設定した上で、団長と呼ばれる団体購入のリーダーが住民の要望を取りまとめて購入し、マンション内で商品の分配を行っています。これまで交流の無かった隣人と物々交換を始めた人も少なくありません。コミュニティの住民同士の交流活性化は、都市封鎖が生んだ数少ないメリットの一つと言えるかも知れません。

**(2) 政府支援物資の配達**

市政府では、市民生活の不便を解消するため、都市封鎖直後から、生活に不可欠な食料その他の物資の各戸配布を行っています。報告者宅では、これまで、食料は、野菜セット、鶏肉、豚肉、カップ麺、菓子類、米、油、調味料などを受け取りました。また、その他物資として、シャンプーや洗剤、ゴミ袋なども受領しました。居住する区やマンションによって、支援の頻度や内容に多少のばらつきがありますが、概ね週に1~2回程度、何らかの支援物資を無償で受け取っています。

特に、スマートフォンの操作に不慣れな高齢者等で、ネット購入や団体購入に参加できない方々にとっては、政府支援物資が文字通りの命綱となっているようです。



団体購入のミネラルウォーター



政府支援物資の一例（野菜、キノコ、豆腐、肉まん、乾麺、豚肉、鶏肉）

**<封鎖生活の一日（例）> （※全てのイベントが毎日発生する訳ではありません。）**

- 8:00 スマートフォンの宅配アプリで、生鮮品の購入にチャレンジ
- 9:00 在宅勤務開始（オンライン会議やメールでの情報収集など）
- 9:30 PCR検査を受検（自室での抗原検査の場合もあり。いずれかの検査をほぼ毎日実施）
- 12:00 スマートフォンの宅配アプリで、生鮮品の購入に「再」チャレンジ
- 14:00 マンション住民グループチャットで「団体購入」の商品を注文
- 17:30 在宅勤務終了
- 18:00 住民ボランティア活動（「団体購入」で購入した商品を分配し、購入者の部屋へ配達）
- 19:00 政府支援物資を受領（※週に1~2回）

5. 展望

4月末の時点では、感染者数は減少傾向に転じているものの、ゼロコロナ政策を堅持する中国において、本年2月まで、曲がりなりにも市中感染者ゼロを達成してきた上海市にとっては、依然、桁違いの市中感染が発生し、感染抑制に全力を投入している段階であり、都市封鎖の完了時期については見通しが立たない状況です。

一方、長期にわたる都市封鎖は、上海市及び中国全体の経済活動へ深刻な影響を及ぼしており、ゼロコロナ政策と経済活動の段階的復旧の両立が喫緊の課題となっております。

次回レポートでは、経済面の影響と経済活動の復旧への動きを中心に報告させていただく予定です。

※補足等

報告者のマンションでは、幸いにもこれまで感染者が発生していないため、比較的緩和された条件下で、物質的にも困窮せずに封鎖生活を過ごすことができしております。感染者が1名でも発生した小区の住民、さらには自らが感染者または濃厚接触者となった方々の経験内容は、報告者とは全く異なるものであると存じますが、本稿では自らの実体験をベースに報告させていただきました。

末筆ですが、長期にわたる困難な状況の中で、連日文字通り不眠不休で感染対策に当たっている政府、医療関係者、ボランティアの皆様、生活物資の流通その他ライフラインの維持活動に従事される全ての皆様へ、この場を借りて、心からの感謝をお伝えいたします。